

2019年10月29日

マイクロ流路型遺伝子定量装置「GeneSoC[®]」の新発売について

アズワン株式会社（本社：大阪府大阪市西区、社長：井内 卓嗣、以下アズワン）は、このたび、杏林製薬株式会社（本社：東京都千代田区、社長：荻原 茂、以下杏林製薬）の「マイクロ流路型遺伝子定量装置 GeneSoC[®]」（以下、GeneSoC[®]）および専用測定チップを研究用機器として11月11日より新発売いたします。また、GeneSoC[®]専用測定試薬については、順次発売する予定です。

当社は、プロモーション活動に関して杏林製薬と共同で行うとともに、当社の有する全国の販売ネットワークを通じて販売を行います。

GeneSoC[®]は、国立研究開発法人産業技術総合研究所（以下、「産総研」）が開発したマイクロ流路型サーマルサイクル技術^{*1}を応用し、杏林製薬が産総研と共同で開発した短時間（5 - 15分程度）で試料中のターゲット遺伝子を同定することができる、小型の超高速遺伝子定量装置です。本装置は迅速・適確・簡便にヒト・動植物・微生物や薬剤耐性遺伝子等を同定できる超高速遺伝子定量装置として、基礎・臨床研究ならびに感染症をはじめとする各種検査・診断分野への応用が期待されます。

アズワンは、GeneSoC[®]を研究用マーケットに投入することにより、研究開発現場における課題の解消および実験の効率化をご提案し、研究現場における新たなソリューションの提供を通して研究の進展に貢献してまいります。

「GeneSoC[®]」製品概要

- ・超高速定量的PCR^{*2}技術に基づく迅速な遺伝子検出（5 - 15分程度）
- ・POCT^{*3}を見据え小型化された卓上PCR装置



- ※1 マイクロ流路型サーマルサイクル技術 : 複数のヒーター上に接した微小流路（専用測定チップ）内にて測定試料を繰り返し往復移動させることによってPCRを行う技術。
 なお、杏林製薬は本技術に関する独占実施権を産総研より許諾されております
- ※2 PCR (Polymerase Chain Reaction) : ポリメラーゼ連鎖反応のことで、遺伝子を増幅させる技術
- ※3 POCT (Point of Care Testing) : ベッド(患者)サイドで医療従事者が行う検査

以上

参考資料

●杏林製薬株式会社について

設立：1923年

社長：荻原 茂

売上高：997億36百万円（2019年3月期）

従業員：1567名（2019年3月末現在）

事業内容：医薬品の製造販売

概要：患者さんや医療に携わる方々から信頼され、社会に存在意義を認められる健康貢献企業を目指して、特定領域におけるプレゼンス向上とグローバルな自社新薬の創製に取り組んでいます。営業においては呼吸器科、耳鼻科、泌尿器科を中心とするユーザーに重点化するFC（フランチャイズ・カスタマー）戦略の展開、創薬においては選択と集中を進め、重層的なプログラム開発への取り組みと共に外部創薬テーマの積極的な探索・導入を行なう等、ファースト・イン・クラス創薬に向けた活動を展開しています。



●アズワン株式会社について

1933年(昭和8年)、井内盛栄堂商舗として創業。2001年東証一部上場を機に、アズワン株式会社に社名変更しました。研究・産業・医療分野の400万点近い品揃えをカタログ・WEBを媒体としながら販売店経由で販売する独自のビジネスモデルを展開する、理化学機器の総合商社です。研究者の求める専門的かつ広範な商品・サービス・情報の流通の要となり付加価値を提供することで科学技術の発展に貢献しております。

参考URL <https://www.as-1.co.jp/>

